



日台稲門会

NEWS LETTER 第18号

平成23年(2011年)民国100年

春節号

発行 日台稲門会事務局

編集 岩永・小野間・齋藤

今号は昨年秋に刊行予定でしたが遅延を重ね、遂に春節(2月3日)も間近になってしまいました。心待ちにされていた会員には申し訳なく思っております。日台稲門会ニュースレターをご覧ください。

◇ 台湾校友会 総会報告 ◇

早稲田大学台湾校友会 2010年度総会、関連行事が開催されました

日時：平成22年11月27日(土)

場所：高雄)華王大飯店『金龍廳』

台湾校友会2010年度総会が、11月27日(土)、高雄の華王大飯店『金龍廳』で開催されました。

総会は、定刻18:00の開催宣言と同時に珍しい「童神舞踊」(写真参照)の乱入により開始されました。先ず主催者側代表として南台湾校友会・林滄智会長より、高雄の生活のし易さや貿易・金融面での将来性の紹介と、今後は南部地区稲門会を纏め、校友会活動に積極的に参加していくとの挨拶がなされました。

続いて台湾校友会・董炯熙会長、早稲田大学・鎌田薫新総長の挨拶が行われました。新総長の挨拶では、奥様は台湾人(出身は嘉義)であり、ご息女(長女)も台湾で生まれたことが紹介され、参加者より驚きと親しみの声が上がりました。また海外稲門会の中でも台湾校友会のずば抜けた団結力と活動内容、早稲田大学への高い貢献活動への謝辞と、今後への更なる期待が述べられました。

引き続き日台稲門会、行政書士稲門会、福岡稲門会など友好稲門会の代表の挨拶とお土産交換が行われ、最後に台湾校友会・鄭文哲総幹事より業績報告と次年度計画の説明が行われ、総会を終了しました。

第二部の懇親会は、高雄稲門会・堀内常久会長の乾杯の音頭、女性中心の楽団による国楽演奏をバックにスタートしました。海運都市・高雄らしく海鮮を中心とした台湾料理が次々とテーブルに並び、各テーブルでは参加者による熱い熱い日台交流の輪が広がりました。

台湾校友会幹部、鎌田新総長、各稲門会代表が積極的に各テーブルを回り、交流に努められていたのが印象的でした。

宴酣の中、早稲田大学・台北国際交流センター長の岡本宏一さんの若々しい指揮の下参加者全員で校歌

を斉唱し、台北稲門会の齋藤征二さんの三本締めでお開きとなりました。

参加者は総勢約140名、当会からは岩永会長、小野間幹事長、北村幹事、阪根幹事、江幹事、大嶋幹事、川村、藤井、梶山、簡野会員、さらに夫人など同伴者6名を含め16名が参加しました。



オープニングの「童神舞踊」

翌28日(日)はゴルフと観光の娯楽活動が行われました。ゴルフは信誼ゴルフ場で8:00スタート、観光は9:00から16:30まで観光バスを利用し、校友会の鄭又璋さんと鐘文婷さんのアテンドで孔子廟、台南武道館、台湾文学館など台南散策を行いました。なかでも昼食時は有名な「台南担仔麵」で初めて食べる台湾料理の珍しさと美味しさに、全員大感動がありました。

いつもながら、日本からの参加者への台湾校友会の歓待には、非常感謝です。

ゴルフと観光の娯楽活動終了後、17:00から19:00まで、台北稲門会と日台稲門会共催で「日台稲門交流の夕べ IN 高雄」を開催しました。

例年は台湾校友会総会前夜に台北稲門会と日本からの稲門会が集まり交流していたものを、今年は高雄での開催に併せ、高雄稲門会、高雄稲門会OB会へも拡大し開催したものです。

場所は当会の阪根幹事のご両親が経営する「宮園日

本料理店」で、日本からの留学生、台北稲門会、高雄稲門会、日台稲門会、行政書士稲門会、高雄稲門会OB会等30名が参加しました。3テーブルに分かれ、台湾食材による本格的日本料理を食べながらの交流は大いに盛り上がりました。台北稲門会からは高雄医学大学の教授や医師を目指し高雄医学大学で学ぶ留学生も参加し、早稲田の幅の広さをしみじみ感じた一日でありました。(幹事・北村記)

◇ 日台稲門会 総会報告 ◇

第14回定期総会、講演会、第11回日台交流の集いを開催しました

日 時：平成22年5月15日(土)

場 所：大隈会館(20号館)

今総会には30名の会員が出席、5つの案件を審議しましたが、全て原案通り承認されました。新たに新幹事として川村順一氏、阪根嘉苗氏、西本誠氏、渡邊義典氏の4名が承認され、また長年にわたり幹事として貢献された白鳥和夫氏、一色徹氏が、都合により退任されました。

総会終了後の第2部では、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表(大使)より、「台日及び台中関係の現況」のテーマでご講演頂きました。少年時代の日本での思い出、家族の事、代表として日本への赴任をイントロに、流暢な日本語で台・日・中関係の現況と将来展望をお話頂きました。

第3部の日台交流の集いは、来賓として台北駐日経済文化代表処から馮代表(大使)、斯文化部長、早稲田大学からは長塚国際事務部長、梅森台湾研究所長、台湾校友会からは董会長、陳副会長のご参加を頂き、総勢70名の盛会でした。岩永会長の開会挨拶、来賓

挨拶、馮代表のご発声による乾杯で開演、顧問で長老の渡邊光治会員による横笛演奏でいきなり宴会モードに突入、一挙に盛り上がりました。その後日台の学生や、「台湾人生」を監督された酒井充子さん、台湾関連のお仕事をされている方々も次々と登壇され、日台交流に花を添えてくれました。

宴酣の中、北村幹事と学生松尾君の老若コンビの指揮の下、校歌を高らかに歌い上げ、最後に幹事長の閉会挨拶を持って終了しました。

今年も幹事一同、さらに充実した企画や会報、NL、HPを通じた広報活動を進めてまいりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。(事務局・小野間記)

参加者(順不同、敬称略):「来賓」馮寄台、斯吉甫、長塚博道、梅森直之、董炯熙、陳光敏、酒井健爾、会員32名、校友11名、学生20名、計70名。



◇ その他稲門会への出席 ◇

第17回行政書士稲門会 定時総会後の懇親会へ参加

日 時：平成22年6月26日(土)
場 所：「南国酒家」原宿店迎賓館

行政書士稲門会第17回定時総会後の懇親会に、会長、幹事長の代理として出席しました。同会と当会との関係ですが、当会幹事の大嶋武氏(昭和40年一文国史卒業)が同会でも幹事を務めており、その縁で親しくお付き合いさせて頂いております。同氏は台湾に語学留学の経験がありその折台北稲門会に入会、帰国後直ちに当会に入会し、その縁で稲門会同士の相互交流が始まりました。特に今総会では、早稲田大学野球

部の台湾遠征時に見事な応援リードで名を馳せ、台湾でもすっかり有名人となった山下政行氏が新会長に選任されたこともあり、人柄を彷彿とさせる和やかな雰囲気での懇親会でした。会は他大学行政書士会や税理士、司法書士、社労士などのいわゆる士業界の来賓挨拶が続き、最後は山下新会長による伝統のリードで校歌を斉唱、盛会の裡に散会しました。なお当会からは、齋藤と川村淳一幹事が出席しました。(幹事・齋藤記)

行政書士稲門会 講演会・懇親会へ出席

日 時：平成22年12月11日(土)
場 所：講演会 大隈会館N棟301号室
懇親会 大隈記念タワー16階 校友サロン

行政書士稲門会主催の講演会・懇親会に参加しました。講演会は講師に早稲田大学副総長の田山輝明先生(法学博士)をお迎えし、「成年後見制度とその周辺」と題したテーマでお話を伺いましたが、何やら数十年前に戻って講義を受けているような緊張感を覚えた次第。成年後見制度を簡単に言えば、さまざまな原因で本人の判断能力が不十分になった場合に備えて後見人を決定し、本人の生活・療養看護・財産管理を行う制度とのことですが、講演は実例を交えた非常にリアルな内容で、これから法制度の充実に向け議論が活発になるようです。

懇親会は会場を校友サロンに移し、主賓に元財務相・藤井裕久氏(民主党)の来臨を仰ぎ、東京都、三田会、駿台(明治)、白門会(中央)、鳳会(専修)の各行政書士会、春秋会、社労士、税理士の各稲門会も

ゲスト参加して開宴。来賓からは野球、ラグビー、駅伝を話題にした挨拶が続き盛り上がりました。

ところが司会者の指名により来賓挨拶に立った当会岩永会長が突然、藤井元財務相に二院制の是非につき舌鋒鋭く迫り、藤井元蔵相もこれに熱心に応え「後は選挙民である皆様の世論の盛り上がりを見守りたい」と締めくくった場面は圧巻でした。その後、藤井元財務相から「レッドカード！」(日本酒で)が出るまで迫った日台稲門会の迫力は他の稲門会を圧倒し、軒を借りて母屋を取る有様(来年のご招待は微妙です)。

最後は例により応援部出身・山下新会長のリードで校歌を斉唱し、盛会の裡に散会しました。なお当会からは岩永会長、小野間幹事長、北村(講演会のみ)、渡邊、及び齋藤の幹事3名、計5名が出席しました。(幹事・齋藤記)

海稲連(海外稲門会連絡会)主催合同懇親会 出席報告

日 時：平成22年10月17日(日)
場 所：戸山カフェテリア
(早稲田大学戸山キャンパス構内)

西本幹事の紹介で第1回から参加しています。今回は第2回海外稲門会【合同懇親会】と銘打ち、~校友会設立125周年記念~の2010稲門祭当日の開催でした。

海稲連は海外稲門会連絡会の略で、海外に数多ある稲門会及びそれらの日本支部等の横断的な交流を図っています。

当日の主な催しは競走部の渡辺駅伝監督によるト

ークショー(彼はグランドスラムを宣言しました)、Folk Duo "Old Friend"のライブ(フォーク系)、校友会側で用意した各海外稲門会の幟の下での自己紹介、応援部リーダー・チアのもと校歌斉唱等々盛り沢山。なお当会からは岩永会長、渡邊・西本・齋藤の幹事3名、計4名が出席しました。(幹事・齋藤記)

5月17日 日台早慶戦ゴルフ開催報告

平成22年5月17日・月 於) 習志野カントリークラブ

第一回日台早慶戦ゴルフは、5月17日(月)、千葉県習志野カントリークラブで開催された。この大会は昨年10月に計画されたが、雨のためドローとなり、今回が実質第一回大会となる。参加者は早稲田6名、慶応6名、計12名がエントリーした。

組合せは、各組両校2名ずつの3組。ノータッチ、OKボールなしという一流コンペ並みのルール、競技方法は、新ペリア方式による個人戦、上位4名のグロス合計の団体戦で戦うこと等を全員で確認後、1番ホール前で記念撮影し定刻順次スタートした。

快晴、微風、快適な気温と最高のゴルフ日和であった。アウト終了後昼食時の確認では、慶応が僅差で有利との報告があり、両校のキャプテン(岩永、飯沼)は各組に綿密な戦術を指示し後半

ホールをスタートした。

午後4時半全組ホールアウト。シャワー後クラブバスで千葉ニュータウン中央駅へ移動、居酒屋レストランで第二部の表彰式を兼ねた懇親会を開催した。

ビールで乾杯後、成績発表と団体戦・個人戦の表彰を行った(詳細は下記成績表参照)。

団体戦は15打差で早稲田優勝、個人戦は早稲田の小野間が優勝と、早稲田の完全優勝であった。思い思いにプレーを振り返り、和気藹々のゴルフ談義、ハイボールと美味しい料理で約3時間歓談し散会した。

快晴、素晴らしいコース、気の合ったメンバー、プレー後の歓談と「4好」の一日であった。第二回は10月18日(月)開催予定。(小野間記)

「早稲田」

「慶応」

氏名	グロス	累計	氏名	グロス	累計
岩永 康久	93	93	千田 耕一	94	94
小野間恒夫	96	189	飯沼 昭治	102	196
神田 正治	102	291	大場 知之	106	302
興石 邦豊	105	396	柴山 晴哉	109	411
計/差	396	15		411	

*右:写真:1番ホールでの記念撮影



早稲田連覇! 10月18日 第2回日台早慶戦ゴルフ開催報告

平成22年10月18日・月 於) 習志野カントリークラブ

10月18日(月)絶好の秋晴れの下、千葉県習志野カントリークラブにて、前回15打差完敗(上位4名のグロス合計団体戦)の雪辱を期す慶応7名、迎え討つ早稲田8名の精鋭が参加した。平日にもかかわらずゴルフシーズンたけなわ、加えてセルフデーによる料金安と言うこともあってゴルフ場大盛況で予定より約20分強遅れで4組が順次ティーオフ、従い全組ホールアウトも午後4時半過ぎ、入浴もそこに最寄千葉ニュータウン中央駅前の居酒屋「千年の宴」にて第2

部表彰式・懇親会を実施した。

団体戦は上位3人時点では慶応7打リード、4人終えても5打差を保つも、何んと5人目で早稲田が土壇場大逆転、僅か1打差で連覇の偉業となった。初参加の下中選手がエースとしての実力を発揮。一方慶応は同じく初参加の関選手がスコットランド仕込みの豪打を披露、5打差のダントツベスグロと奮闘したがチーム力に勝る早稲田に屈した。

個人戦は年休を取って大阪から馳せ参じた慶応和田選手がネット0.2ポイント差で初優勝、ディフェンディングチャンピオンの早稲田小野間選手は前日迄の出張疲れと禅譲精神から7位に甘んじた。

居酒屋では敗北チームが次回の幹事をすると

<競技方法>

- ・習志野カントリークラブ・キングコース イン→アウトの順にラウンド
- ・スルー・ザ・グリーン6インチリブレース可、但しOKボールなしの厳格ルール
- ・上位5名のグロス合計の団体戦と新ペリア方式による個人戦
- ・個人戦成績(新ペリア)
- ・団体戦(上位5名グロス合計)

結果の詳細は <http://nittai-toumon.com/?p=560>

いう規定を新たに定めバーボン・ハイボールの手伝いもあって和気あいあいのタラ・レバ談義・自己紹介・反省に大いに盛り上がり8時前に散会となった。なお、今回は5月16日(月)の予定である。(幹事・興石記)



◇ 日台稲門会 講演会・懇親会NEWS ◇

平成22年秋期講演会&懇親会 盛大に開催される

平成22年10月2日(土)

17:00～ 講演会: 22号館5階502教室

18:30～ 懇親会: 大隈会館「楠亭」

平成22年秋の講演会は、台湾駐在員にはお馴染みの月刊「な～るほど・ザ・台湾」の編集長(現在顧問)を務めた、まどか出版編集者の梶山憲一氏(かじやまけんいち、新会員)をお迎えし、『台湾おたくの見た「台湾文化」の過去・現在・未来』と題したテーマでお話を伺いました。

「台湾おたく」というのは、1992年ごろ月刊「しにか」にエッセイを書いた時に自称したものだそうで、その後20年余り台湾をウォッチングしてこられたとのこと、台湾映画のビデオコレクションは何と250本を超えているそうです。

まず台湾体験や台湾文化との係わりを年代順に説明、台湾化と国際化の進捗、出版界の変化(出版物発行数の増加)などの事例から台湾文化とは何かに迫ります。また台湾人の概念については「バタビア城日誌」

——梶山憲一氏プロフィール——

1953年大阪生まれ。78年社会科学部卒業、在学中に、他大学の学生と文芸誌「季刊ピエロタ」を発行、卒業後は書籍編集者となり、主に歴史や美術に関する書籍の企画・編集に携わった(『NHK故宮博物院』全15巻など)。90年初めて台湾へ旅行、以後台湾に深く関心を持ち、記事を書くようになる。これらの記事によって日

から説き起こし、台湾人のルーツは平埔族の一支族であるシラヤ(Siraya 西拉雅)族やケタガラン(凱達格蘭)族であり、福建人(泉州人、漳州人)ではないとします。面白いことに「バタビア城日誌」によれば中国人も台湾人も今と同じ評価とのこと。

日抛時代を経て中国文化一辺倒の時代を迎えたにも拘らず、台湾文化の完全否定にまでは至らなかった、却って多様化してきた。漢化が進んだのではなく平埔化が進んだのでは。

お話を伺っていると、台湾文化のみならず、多くの省と民族で構成される中国の総体的な文化って何だろう、単一民族と自称している日本の文化って何だろうと、いう疑問に心を馳せてしまう一夜でした。(幹事・齋藤記)

本ライタースネットワーク大賞を受賞。92年、日台の友人とともに「ふおるもさ」を創刊。00年にまどか出版編集長となり、台湾関連書籍を多く刊行。03～06年月刊「な～るほど・ザ・台湾」編集長となり足しげく台湾へ「出勤」。06年秋からは同誌顧問として台湾へ「出張」している。

◇ 新会員・会友紹介 ◇

新 会 員

岡嶋 久彌 (おかじま ひさし) さん。
昭和44年(1969年)政治経済学部経済学科
卒業 ☆入会の動機：台湾に興味がある

逸見 政幸 (へんみ まさゆき) さん
昭和53年(1978年)商学部卒業 ☆入会の
動機：台湾が好き

中島 淳 (なかじま あつし) さん
平成3年(1991年)第二文学部卒業、平成6
年(1994年)商研卒業 ☆入会の動機：台湾
に仕事で駐在、高橋徹さんからの紹介です

山下 晋一 (やました しんいち) さん
昭和54年(1979年)商学部卒業、台北稲門
会からの紹介です

高橋 徹 (たかはし とおる) さん
昭和48年(1973年)商学部卒業 ☆入会の
動機：日本に帰国し、台湾と早稲田の役に立
ちたい(立派!)

柿澤 博右さん
昭和39年(1964年)商学部卒業 ☆入会の
動機：岩永会長から紹介を受けました

小椋 和平さん
昭和52年(1977年)理工学部機械工学卒業、
昭和54年(1979年)大学院理工学研究科卒
業 ☆入会の動機：仕事で台湾に駐在してい
た、岩永会長からの紹介です

先崎 寛 (せんざき ひろし) さん
昭和36年(1961年)大学院商学研究科(商
研)卒業 ☆入会の動機：米留学時の友人
達が台湾出身であったため、香港勤務時台湾
訪問を10数回重ねた。基本的に台湾をこよ
なく愛し、今後も日台稲門会会員として継続
したい。渡邊光治会員からの紹介です。

復 帰 会 員

川村 淳一 (かわむら じゅんいち) さん
昭和55年(1980年)政治経済学部政治卒業

このたびミャンマーから帰国されました

退 会 会 員

松崎 好昭さん(平成22年9月・退会申出)

逝 去 会 員

一色 徹 (いっしき とおる) さん
昭和39年(1964年)商学部卒業
平成22年7月19日、薬石効なく逝去され

ました。氏は長年幹事を務められ、当会の活
動に大いに寄与されました。合掌。

◇ 平成狂歌「春の巻」 ◇

みなさん、こんにちは。

このたび、事務局のご好意で、ここ3、4年、毎日作っている私の拙い狂歌、あるいは落首の類をご披露
させていただきますことになりました。ご笑覧ください。

関口恒雄

春節の飾りに欲しい餅肌の
バンニーガールが搗いた尻餅

入社時は希望に胸を膨らまし
脂肪に腹を膨らまし去る

深酒のトラ年悔いる海老の目は
赤く充血干支のウサギに

台湾に引かれて抜けた後ろ髪
浮世冷たく生える間もなし

流出のビデオは前から後ろから
ぶっつけ本番しかも日中

※作者は1964年文学部卒業後(株)電通入社、
1995年～2002年まで、在台北。

§ 台湾関連書籍紹介 §

『来福の家』 温又柔 (おん・ゆうじゅう)・著

集英社 (第33回すばる文学賞佳作受賞の「好去好来歌」を併録) ¥1,575 (税込)
(「すばる」平成22年6月号にも収録)

著者の温又柔は台湾・台北に生まれ、幼児期に家族と東京に移住、以来日本語環境の中で教育を受け、小説を書くようになりました。この作品は、日本で育った台湾籍姉妹と一家の日常を描いたもの。

主人公「わたし」の名前は許笑笑 (キョ・ショウシヨウ)、姉の名前は許歓歓 (キョ・カンカン) です。姉は大学の中国語学科を卒業し、外国から来て「自分の意志とは関係なく、突然、日本で暮らさなくちゃ行けなくなった子供たち」に日本語を教えています。姉の夫の瀬戸さんは、小学校の先生です。

姉に影響を受けた妹の「わたし」は大学卒業後、「外国語」である中国語を学ぶために専門学校に入ります。「わたし」の話す言葉は、赤ちゃんの時から日本語でした。「おうちでは何語で喋るの?」と、専門学校の同

級生に聞かれ、「おうちでは、適当適当!」と答えます。子どもの頃からそうしてきました。

「わたし」にとっての中国語は長いこと響きそのもの、それが、中国語を習うようになって意味のあることを発見します。姉は「わたし」と違い、積極的に両国語の文字を覚え、自在に操ります。

祖父母は日本語世代なので、中国語よりも日本語を上手に話します。お父さんは、「おばあちゃんの日本語は、おばあちゃんの中国語よりもずっといいって」と言っています。

といったエピソードが続き、改めて「言語」や「国語」について、そして「国家」の定義ってなんなんだって考え込んでしまいます。(幹事・齋藤記)

『日本・台湾・中国 築けるか新たな構図』 池田 維 (いけだ・ただし)・著

産経新聞出版 (¥1,785)

著者は会員の皆様にもお馴染みの、交流協会台北事務所元代表 (大使)。民進党から中国国民党への政権交代を現地につぶさに観察したキャリア外交官の豊富な経験に基づく分析は、(我われのように) 単なるシンパシー (共感) から台湾を見る目とは違い、誠に冷徹です。我われは、兎に角台湾大好き、台湾最良で突っ走りますので、時にはこういった視点も必要かもしれません。

“台湾問題”は中国問題です。日台関係も、台湾内

部の本土派の台頭も、そして台湾・中国の兩岸関係も中国の出方にかかっています。そしてもう一方には米国がいます。つまり、台湾問題は“米中問題”でもあります。従って、現在のところ台湾も中国も、そして日本も米国も「現状維持」を良しとしています。

著者は、現状を冷徹に分析するとともに「新たな構図」を展望、是非一読を薦めたい一冊です。(幹事・齋藤記)

◇ 会 合 予 告 ◇

『第15回日台稲門会定期総会・第12回日台交流の集い』のご案内

日 時: 平成23年5月21日 (土)
定期総会 15:00~
講演会 16:00~17:30
講 師 元外務省欧亜局長・東郷和彦氏
日台交流の集い 17:30~
会 場: 未定



新春講演会のご案内

既に旧臘、丸山幹事からのご案内がお手許に届いていることと思いますが、平成23年新春講演会を下記の通り開催致しますので奮ってご参加ください。

今回は、NHK解説委員の林純一氏にご講演をお願い致します。林氏は、長年に渡り東アジアをフィールドにご活躍されている国際ジャーナリストです。NHKの台北支局長として、台湾をじっくり取材された経験をお持ちですので、興味深いお話が伺えると存じます（プロフィール参照）。

多くの会員が参加され、新春の有意義な一時と致したく、皆様のご参加を心よりお待ちしております。なお、今回は講演会のみですので、会費はございません。

記

日 時：平成23年2月5日（土）16：00～17：30（講演1時間、質疑応答30分）

場 所：早稲田大学キャンパス22号館5階502教室

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

講 師：林 純一氏

演 題：「転換期の東アジアと台湾の行方」

会 費：無料

連絡先：日台稲門会幹事 丸山 弘子 TEL/FAX：03-3953-9415

E-mail:wasebear@wf7.so-net.ne.jp

——林 純一氏プロフィール——

1949年生まれ。72年上智大学卒業、NHK入局、83年より報道局国際部記者、93—96年香港支局長、98—2002年台北支局長、02—09年解説委員室解説主幹、09年定年退職以後、専門解説委員としてNHK勤務。

◇ 日台稲門会ホームページ ◇

皆さん、当会ホームページをご覧になっていますか。幹事の阪根嘉苗さんが担当し、立派なものに仕上がっています。<http://nittai-toumon.com/> 当会のホームページは会からの情報発信、会員相互の情報交換などを目的に運営し、リアルタイムに更新することを心がけています。

ご承知の通りホームページはウェブ上に公開されていますので、パソコンやiPadなどのタブレット型端末、あるいは携帯電話からでもインターネットに接続できる機器を使用すれば、それこそ誰もが世界中から閲覧することができます。ですからホームページ上に掲載するコンテンツの内容やその表現方法には自らルールが必要となります。

当会ではこの点に鑑み、先般の幹事会で、ホームページのプライバシーポリシーや運用基準を検討・制定し、現在運用しています。コンプライアンスの遵守、政治・宗教・商業活動や自己宣伝と思われる記事の排除、公序良俗に反する記事は掲載しません。また個人情報も個人を特定できる項目には配慮します。身内は兎も角、世界中には発信したくない情報もありますよね。どうか安心してご覧ください。（幹事：齋藤記）

当会ホームページURL：<http://nittai-toumon.com/>

■ 編集後記 ■ ホームページとは本当に便利なもので、情報を掲載すれば直ちに伝播する。即時性では会報、ニュースレターは全く太刀打ちできず、考えようによっては既に陳腐化した情報の羅列に過ぎないともいえる。ただし紙（印刷物）に優位性があるとすれば、本紙が手許に届くという行為は読者がそれを開封して読む（であろう）行為を惹起すること。ホームページは日頃閲覧する習慣性が必要で、開かなければそれっきりである。ともあれ、メディアとしてのホームページと会報やニュースレターとを、それぞれの特性を生かして活用することを考える時期であることは確か。当会は会員の参加が必要不可欠です。今次総会時発行の会報では広報に対してのご意見を特集したく、奮って投稿願います。（編集子 齋藤）